

'15 日本生涯教育学会 論集 36 抜刷

スコットランドにおける成人向け高等教育進学準備課程

— 近年の動向 —

柳 田 雅 明

スコットランドにおける成人向け高等教育進学準備課程 —近年の動向—

柳田 雅明
(青山学院大学)

【要旨】

本論考では、後期中等教育を修了していない成人を主な対象者として設けられる「成人向け高等教育進学準備課程」について、スコットランドにおける近年の動向を紹介・検討する。その具体的な対象は、高等教育機関とは別の教育機関に設けられる「スコットランド・より幅広いアクセスのためのプログラム」(SWAP)である。

SWAPは、不利な立場に置かれた成人たちが高等教育に進むことを促進し支援する取り組みであり、その履修者の7割が高等教育機関に進学する。うち8割が家族初の進学者となっている。たしかに高等教育機関入学時に必要となる到達度がスコットランドで標準17歳である中、医学等選別度が高い分野において標準18歳入学へと移行している状況には十分な対応の仕方が見出しがたい。しかしそれ以外の場合、成人たちにとって現行制度のままでもそれほど大きな問題となっていない。

1. はじめに

本論考は、「成人向け高等教育進学準備課程」(Access to HE Programmes)について、スコットランドにおける近年の動向を、現地における研究の進展を踏まえつつ紹介・検討するものである。後期中等教育を修了しない成人向けに設けられる「成人向け高等教育進学準備課程」にあたるものは、日本で見られないといえる。

本論考における検討の中心は、「スコットランド・より幅広いアクセスのためのプログラム」(Scottish Wider Access Programme) (以下SWAPと略記)である。「成人向け高等教育進学準備課程」には、各大学が当該大学に進学することを基本として学内でいわば予科として設けられる場合と、進学先となる大学等高等教育機関でない継続教育カレッジ(further education colleges)¹⁾に設けられる場合がある。SWAPは、その後者となる。

その具体的な検討対象とするのは、筆者が2013年3月実践訪問およびその後をも含めた一次資料そしてOsborne (2013)である。2000年頃までの動向については、柳田(2001, 2004, 2006, 2007)などですでに公になっているものの、今回、近年の動向を、進路に関するデータを中心に示していく。加えて、スコットランドでの全国資格枠組み(NQF)となるスコットランド単位・資格枠組み(The Scottish Credit and Qualifications Framework、略称SCQF)においてどのような関係にあるのかについて、柳田(2007, 2013)を発展させる形で検討する。

先行研究としては、スコットランドにおける「成人向け高等教育入学準備課程」に関する学術研究が、自身がグラスゴー大学の実践当事者でもあったリン・ウォーカー(Lynn Walker)らによって1990年代に精力的に公にされてきた。Walker (2000)も1988年から1993年までの取り組みが検討対象であった。前出のオズボーンらは、教職を目指すSWAPを事例としての検討をしている(Osborne, et al. 1994)。ただ、1994年スコットランド政府からの

直接補助金廃止によって、研究対象としての注目度が下がってしまったことは否めない。なお、SWAP を実施する立場からのとりまとめとしては、Snaith, et al. (1998)がある。その後は、正統的周辺参加理論を用いた人間関係論による検討となる O'Donnell and Tobbell (2007)が、学術的論考として見出せるぐらいである。邦文としては、2000 年頃までの「成人向け高等教育進学準備課程」の動向について、柳田(2001, 2004, 2006, 2007) また『生涯学習 e 事典』でももっぱらその柳田がこれまで取り上げている。

ところが、従来状況は変わってきているといえよう。スコットランドは、2014 年 9 月 18 日(木) イギリス連合王国からの分離独立に関する住民投票(referendum)により注目を集めた。『スコットランドの教育・第 4 版:住民投票(Scottish Education, 4th Edition: Referendum)』には、「成人向け高等教育進学準備課程」を取り上げその成果を肯定的に評価する前出 Osborne (2013)が掲載されている。²⁾

2. スコットランドにおける高等教育入学制度と成人向け高等教育進学準備課程

スコットランドでは、近年の高等教育進学率は、7 割にもなっている。そして制度上特異なこととして、基本的に大学入学の標準年齢が 17 歳であることがある。日本でいえば高校 2 年を終えた時点で大学等高等教育機関に進む。そもそもイギリス連合王国は連邦国家である。社会制度での違いも見られてくる。教育制度においても、大学入学の標準年齢が、18 歳であるイングランド、ウェールズそして北アイルランドより、1 歳早くなっている。

スコットランドでの「成人向け高等教育進学準備課程」が基本的に 1 年制であることに関しては、イングランド・ウェールズそして北アイルランドと同じである。ただし、修了時に求められる到達度に達成する年齢は、標準 17 歳とやはり 1 学年分早くなる。

(1) 沿革

SWAP は、1985 年に構想され、1987 年には継続教育カレッジ(further education college)の 3 校で開始され、1988 年にスコットランド政府が関与することにより確立した。なお、各大学が自校内部進学する方式で設置する「成人向け高等教育入学準備課程(Access Programme)」は、1979 年にグラスゴー大学に開設されたものが最初となる。

SWAP の各プログラムは、基本単位組み合わせ(モジュラー)方式で、行政執行機関となるスコットランド資格機関(Scottish Qualifications Authority - SQA)が認定する「単位」を取得する。それら所定の単位を取得して修了すれば、学士課程もしくは「スコットランド高等全国資格(Scottish Higher National Certificate - HNC)」や、「スコットランド高等全国証書(Scottish Higher National Diploma - HND)」という高等教育水準職業資格課程入学の基礎要件となる。そこでの学習成果を認定する証書も、伝統的若年者が主対象の資格である「ハイヤー(Highers)」の取得者も、「スコットランド共通資格・単位枠組み(Scottish Credit and Qualifications Framework)」(以下 SCQF と略記)では、同じ水準 6 となっている。これまで 3 万 2 千人ものの SWAP 修了者が高等教育機関に進学している³⁾。

(2) 現況

1) SWAP 全体の概況

SWAP には、実は2つのコンソーシアムがある。グラスゴーなど西部を対象とする SWAP 西(SWAP West)は、9つの継続教育カレッジと8つの高等教育機関からなる。エディンバラなど東部を対象とする SWAP 東(SWAP East)は、5つ継続教育カレッジと11の高等教育機関からなる。これら継続教育カレッジと大学から財源を受けてコンソーシアムが運営されている。

SWAP 西と SWAP 東では、少数精鋭の中核チームをそれぞれで設けている。それらチームの業務は、「成人向け高等教育進学準備課程」のための協力関係を築き上げ、教育機会へと大人たちが復帰することを推し進める人々と共同作業し、またそれに関連する情報提供と助言・ガイダンスをすることである。その財源は、構成各教育機関とスコットランド政府からの補助金となる。

SWAP 在学者の進路先最新全体数は、次の通りである (Scottish Wider Access Programme (West and Central Scotland) Consortium 2013)。

表 1 入学者の進路—大学等別 (SWAP 西・SWAP 東との合計)

	2012 - 2013	%
大学 University	752	54.7
高等教育資格課程 HNC	165	12.0
就労 Employment	26	1.9
修了 (進路不明) Completed (unknown)	53	3.9
未修了 Not completed	[380]	[27.6]
合計	1,376	

学士課程そして大学でない高等教育資格課程への進学者が900人強となる。したがって、スコットランドでの高等教育入学者のうち SWAP 修了者は、2パーセント弱となる。⁴⁾

2) 詳細状況 —SWAP 西の資料より—

より詳細な進路先状況については、今回資料が入手できた SWAP 西のものを紹介する。なお、Osborne (2013)での踏み込んだ検討は、この SWAP 西に焦点化している。

SWAP 西では、9つ(2013年11月の統合再編までは19)の継続教育カレッジで、37プログラムを実施している。SWAP 西のコンソーシアム高等教育側メンバーは、次の8校である。そこには世界的な著名校もある。

- ・グラスゴー・カレドニアン大学(Glasgow Caledonian University)
- ・グラスゴー大学 (University of Glasgow)
- ・グラスゴー芸術大学(Glasgow School of Art)
- ・王認スコットランド芸術院大学(Royal Conservatoire of Scotland)
[旧称 王認スコットランド美術・演劇アカデミー(formerly RSAMD)]
- ・スコットランド田園大学(Scotland's Rural College - SRUC)

[統合再編までは、スコットランド農業大学(Scottish Agricultural College - SAC)]

- ・スターリング大学 (University of Stirling)
- ・ストラスクライド大学(University of Strathclyde)
- ・西スコットランド大学(University of the West of Scotland - UWS)⁵⁾

SWAP 西プログラム在学者の進路状況は次の通りである(以下の各表は、Scottish Wider Access Programme (West and Central Scotland) Consortium 2013)における原表での年度・集計区分をそのまま用いている)。

表 2 入学者の進路 - 全体 (SWAP 西)

	2013	%	2012	%	2011	%	2010	%
大学 University	483	60	477	59	472	59	527	60
学士でない資格を目指す高等教育課程	95	12	107	13	32	4	76	9
就労 Work	15	2	19	2	14	2	27	3
修了 (進路不明) Completed (unknown progression)	16	2	5	1	30	4	20	2
未修了 Not completed	193	24	200	25	249	31	228	26
合計	802		808		797		878	

具体的な進路先は、次の通りとなる。

表 3-1 入学者の進路 - 大学等別 (SWAP 西)

	2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007
グラスゴー・カレドニアン大学	145	138	122	165	137	123	83
グラスゴー大学	117	104	111	76	60	50	59
スコットランド田園大学 (2012年まで、スコットランド農業大学)	1	1	1	1	3	1	0
スターリング大学	33	41	24	43	51	54	28
ストラスクライド大学	46	27	34	67	55	69	67
西スコットランド大学	132	151	163	151	70	57	36
他大学	9	15	17	15	9	9	10
学士でない資格を目指す高等教育課程	95	107	32	76	64	65	-
就労	15	6	14	27	23	-	-

プログラム領域別の進学先は、それぞれ以下の通りである。なお、年に対応する数字がないものは、原資料において記載がないものである。

表 3-2 人文学領域 (Humanities) 進学先 - 大学等別 (SWAP 西)

	学生数- 2013 (2012/2011)
グラスゴー・カレドニアン大学	14 (20 / 17)
スターリング大学	20 (17 / 11)
ストラスクライド大学	36 (20 / 30)
グラスゴー大学	79 (65 / 83)
西スコットランド大学	17 (19 / 20)
他大学	1 (5)
学士でない資格を目指す高等教育課程	45 (47)
計	212(193 /164)

表 3-3 看護・介護・保育領域 (Nursing) 進学先 - 大学等別 (SWAP 西)

	学生数 - 2013 (2012/2011)	
グラスゴー・カレドニアン大学	64 (51)	成人対象
	7 (7)	児童対象
	10 (9)	精神保健 (mental health)
	2 (6)	学習障がい(LD)
スターリング大学	4 (24 /13)	
	4	成人対象
西スコットランド大学	105 (135 / 136)	成人・精神衛生横断
	89 (103)	成人対象
	16 (32)	精神保健
グラスゴー大学	1	
学士でない資格を目指す高等教育課程	37	
計	230 (276)	

表 3-4 医学・薬学領域 (Medical Studies) 進学先 - 大学等別 (SWAP 西)

	学生数 - 2013 (2012)
グラスゴー大学	3 (2) - 医学 (Medicine)
	1 (3) - 獣医学 (Vet Medicine)
ストラスクライド大学	1 - 薬学(Pharmacy)
計	5 (5)

表 3-5 理学・科学技術領域 (Science & Technology) 進学先 - 大学等別 (SWAP 西)

	学生数 Students – 2013 (2012/2011)
グラスゴー・カレドニアン大学	13 (7 / 9)
グラスゴー大学	34 (25 / 23)
ストラスクライド大学	10 (7 / 5)
西スコットランド大学	10 (3 / 7)
スターリング大学	9 (1 / 0)
スコットランド田園大学	1 (1 / 1)
他大学	7 (3 / 6)
学士でない資格を目指す高等教育課程	8
計	92 (51 / 52)

SWAP は、そもそも設立の理念からして、不利な立場に置かれた成人たちが高等教育に進むことを促進し支援する。それを検証するため、参加拡大に関する計測単位(Widening Participation Measures)に基づく集計が行われてきている。

家族で初めての高等教育進学者(No family experience of HE)となることに関しては、SWAP 西において、2013 年では全進学者数の内 8 割にのぼっている。

表 4 家族で始めて高等教育に進むことになる入学者と修了者 (SWAP 西)

入学年	SWAP西の入学者数 (%)	SWAP西の修了者数 (%)
2013	649 (82)	487 (80)
2012	611 (76)	451 (74)
2011	582 (73)	400 (73)
2010	479 (55)	329 (53)
2009	420 (59)	255 (54)
2008	361 (56)	227 (53)

また SWAP のプログラム入学時に、先ほど示したスコットランドでの高等教育入学水準となる SCQF 水準 6 に至っていなかったものは、2013 年入学生(SWAP 西と SWAP 東の合計)のうち 1,035 名(75%)のうち 739 名(54%)が修了した。

表 5 高等教育入学水準資格未取得であった入学者と修了者 (SWAP 西)

入学年	SWAP西の入学者数 (%)	SWAP西の修了者数 (%)
2013	649 (81)	493 (81)
2012	671 (83)	495 (82)
2011	638 (81)	444 (81)
2010	679 (78)	478 (77)
2009	513 (72)	330 (70)
2008	464 (72)	278 (65)

黒人・少数民族と障がいのある者には、2013年修了者においてそれぞれで1割ほどであり、ともに増加傾向にある(Scottish Wider Access Programme (West and Central Scotland) Consortium 2013)。

以上のように、修了(Success)の割合を見れば、その不利な立場の種別による大きな違いは出ていないといえる。なお、スコットランド共通困窮度指数(Scottish Index of Multiple Deprivation)を用いての集計もある。ただ、それに関する十分な論究は、筆者に専門的な解釈をする力がないためできないものの、修了時での数値に特に違いは出ていない。

もちろん、このような不利な立場にある者の入学・修了そして進学の人数を増大させることが当然のこととして目指されている。その数値目標も立てられている(Scottish Wider Access Programme (West and Central Scotland) Consortium 2013)。

一方、中退(withdrawals)に関しては、入学者の2割から3割となっている。その理由に関しては、やや古い資料となるものの、難度の高さを理由とするのは1割程度となっている。(Anderson 2007)

3) 資格枠組みとの関連

では、SWAPにおいて、成人と伝統的若年学生共通の水準設定が、果たしてどのように機能するものなのか。「スコットランド単位・資格枠組み SCQF」では、大学等高等教育機関入学のための要求水準は、基本的に水準6である。このことは、「成人向け高等教育進学準備課程」修了だからという理由で水準を下げないことを意味する。SWAP在学者についても、不利な立場に置かれているという理由だけで進学時点での要求水準を下げないこととなる。実は1990年代には、SWAP在学者の6割もが高等教育機関に進学できていなかった(Snaith, et al. 1998)。このような厳格な評価判定方式とするのであれば、大学等高等教育機関に入学するだけの水準になかなか至らない者に対して、その後においても適正な学習機会をしっかりと設けなければ、希望する進路に進めなかった参加者たちの納得を得られるものではない(柳田 2001, 2004)と評されていた。

近年では、SWAP修了者の高等教育進学率が7割にもなっている⁶⁾。その点に関しては、大きな進展ではある。たしかに高等教育全進学者のうちの2パーセント弱であるものの、Osborne (2013)が以上の動向に肯定的な書きぶりであることを筆者も理解できる。

ところが、成人と伝統的若年学生共通の水準設定を揺るがす事態が、この高等教育進学時点で生じている。殊に選別的な入学者選考を行う大学等学部・学科では、スコットランドでも標準18歳での大学進学が進んでいるのである。具体的には、18歳標準となる「アドバンスト・ハイヤー(Advanced Higher)」(SCQF水準7)取得での入学者が、増加している。さらにスコットランド自治政府は、この「アドバンスト・ハイヤー」を組み込んだ形で、スコットランド・バカロレア(Scottish Baccalaureates)を強力に政策推進をして、標準18歳入学を支えようとしている⁷⁾。一方、「成人向け高等教育進学準備課程」で求められるのは、依然としてSCQF水準6である。それゆえ、後期中等教育機関から直接進学してくる伝統的若年学生たちより1学年分進度が遅れる実態となっている。成人向け高等教育入学準備課程(Access Programmes)修了によるグラスゴー大学の理学領域進学者が入学後の勉学に付いていくことの厳しさは、SWAPおよび同大学付置のもの双方の出身者から複数ヒ

アリングしたことで、筆者も 2013 年 3 月現地訪問時に確認できている。

4. おわりに

そうは言っても、この日本にない取り組みが、若年時に勉学において機会を逃さないし挫折を経た人に向けてすでに存在し続けている点はやはり注目に値する。そして修了率そして進学率も向上している点も特筆できる。大学等高等教育機関にとっても、一日二日の筆記試験だけでなく、1 年制という方式を採ることで、進学後の勉学に必要な準備性をかなりの時間をかけて確認した結果として見るができる。殊に選別度が高くなく、学生集めを苦勞している場合には、入学後の学びによりの確に対応しやすくもなる。

たしかに医学や獣医学をはじめ選別的な選考を必要とする領域においては、標準 18 歳入学を政策上進めていることにどのように対応していくのかが、もちろん大きな課題となるろう。「成人向け高等教育進学準備課程」を一部 2 年制とすることをすぐ思いつくものの、そうしていくような動向は少なくとも現時点では見るができない。この 1 年延長が学び手となる成人たちにとってさらなる大きな壁となると想定されるからである。

一方、かつて述べられたように(柳田 2001, 2004)、成人たちが生活根拠を大幅に変えることなくいわば現職を土台とする着実な進展などを望んで大学等へと進む場合には、1 年制での現行制度のままで実はそれほど大きな問題とならない。なぜなら、スコットランドにおける伝統的な若年学生の多くが、基本的に高等教育入学の標準的年齢が 17 歳であることが変わらないからである。

ここにも、大学等高等教育機関が実に多様な入学者を受け入れている状況が見られるのである。実は、卒業時にもまた水準の違いが制度として存在している。SCQF では、水準 10 である「優等学位」(Honour Degree) と水準 9 である「並学位」(Ordinal Degree)とで差が付けられている。同じ学科で同級生として机を並べていた場合であっても、その差が生じるのである。「並学位」には、「ようやく卒業」という意味合いがあって社会的な通用度が低く、それをパスポートにして人生を切り開くことは容易ではない。この「成人向け高等教育進学準備課程」出身者が進学先の大学等で「優等学位」と「並学位」のどちらを取得したかについては、先行研究(Walker 2000)での切り口ともなっている。今回踏み込めなかったものの、今後の検討に欠かせなくなろう。

ただ、スコットランドを対象とする今回の検討だけでは、イギリス連合王国における状況を示すには十分でない。実は、本 2015 年 3 月「成人向け高等教育進学準備課程」において先進的な取り組みを続けてきたロンドンのシティ・リット(City Lit)が、その大幅な縮小を強いられている状況を、筆者は確認した。ロンドンのあるイングランドは、スコットランドと教育制度が別である。成人になってから大学に進もうとする時の経済的条件整備において、殊に就労と直接結び付きにくい分野に進学したいような場合、それを支える制度がもはやイングランドにおいてなくなってしまっていることを痛感した。併せて検討していくことが欠かせない。

今後、日本での可能性を視野に入れつつ、引き続きイギリスの「成人向け高等教育進学準備課程」は考察すべき対象であると考えらる。

[付記]

関係する資料と情報の提供を含め長きにわたり大いにご助力いただいた次の方々を、ここに記して深く感謝申し上げます。

ケネス (ケニー) ・アンダーソン、SWAP 西・執行責任者 (Kenneth (Kenny) Anderson - Director, Scottish Wider Access Programme – West Consortium)

リサ・マーシリ、SWAP 西・開発責任者 (Dr Lisa Marsili - Development Officer, Scottish Wider Access Programme – West Consortium)

マイケル (マイク) ・オズボーン、グラスゴー大学教育学研究科 (Professor Michael (Mike) Osborne - School of Education, University of Glasgow)

なお、本論考は、科研費 (課題番号 22530827 平成 22 年度から 24 年度) および(課題番号 25381040 平成 25 年度から 27 年度)を受けてのものである。

注

- 1) 後期中等教育段階を含め、義務教育後の実に多様な教育機会を提供する教育機関である。イギリス連合王国において、スコットランドのみならず数多く存在する。
- 2) なお、大学内に設けられいわば内部進学をする「成人向け高等教育進学準備課程」のスコットランドにおける状況は、すでに口頭発表(柳田 2013)もある。
- 3) Scottish Wider Access Programme, *About SWAP*, <http://www.scottishwideraccess.org/national-about-swap> [accessed July 3, 2015].
- 4) スコットランドにおける学士課程入学者の最新数値である 2012-2013 年度で 48,520 名 (うち全日制 34,060 名)であり、この数値が近年大きく変化していない。Higher Education Statistic Agency (2014) “Table 4 - UK domiciled, first year student enrolments on HE courses by level of study, mode of study, domicile and location of HE institution 2011/12 & 2012/13,” *Statistical First Releases*, https://www.hesa.ac.uk/dox/pressOffice/sfr197/280607_student_sfr197_1213_table_5.xlsx [accessed July 3, 2015].
- 5) 名称の原語が *university* でない機関があるにもかかわらず、全て大学と和訳しているのは、いずれもが学士以上の課程を設けかつその学位授与権があるからである。
- 6) ただ、その理由についてまで検討できるような根拠資料が現段階では見出しがたい。
- 7) スコットランド・バカロレアは、実はそれ自体が論争の対象でもある。管理職教員団体であるスクールズ・リーダー・スコットランド(School Leaders Scotland)でも、前会長がスコットランド・バカロレアをスコットランド資格機関(SQA)の配信動画にて強く推薦する一方、2013 年 3 月 19 日に面談いただいた当時の事務総長(Secretary General)であるケン・カニングム(Ken Cunningham)氏は、きわめて否定的であった。スコットランド国民党の政策としてスコットランド・バカロレアが導入されているものの、科学的なエビデンスに基づくとは言い難く、「バカロレア」という名称を用いているとはいえ、フランスのバカロレアや国際バカロレアの理念に比してもその名を使うに値しないとの見解をカニングム氏は示した。この見解には、氏を紹介いただき、その場同席のエディンバラ大学教育社会学センター(Centre for Educational Sociology)のデイビッド・レイフェ(David Raffae)教授も同意していた。レイフェ教授は、本年 2015 年 2 月 15 日に逝去するまでスコットランドにおける高大接続に関する研究を主導してきた。

参考文献

- Anderson, Kenneth. 2007. "SWAP West 20 Years in the transition business". *Proceedings of Centre for Research and Lifelong Learning 4th Annual Conference: The Times, They are a-Changin' Researching Transition in Lifelong Learning*, University of Stirling, 22-24 June, 2007.
- O'Donnell, Victoria L. and Jane Tobbell. 2007. "The Transition of Adult Students to Higher Education: Legitimate Peripheral Participation in a Community of Practice?" *Adult Education Quarterly*, 57: 312-328.
- Osborne, Michael. 2013. Access and retention. In: Bryce, T.G.K., Humes, W.M., Gillies, D. and Kennedy, A. (eds.) *Scottish Education, 4th Edition: Referendum*, 316-326. Edinburgh: Edinburgh University Press, UK.
- Osborne, Michael T., Peter Cope, and Richard M. Johnstone. 1994. "The Backgrounds and Experiences of Adult Returners to an Access to Secondary Teaching Scheme." *Continuing Higher Education Review* 58, No. 1-2: 41-63.
- Scottish Wider Access Programme (West and Central Scotland) Consortium. 2013. *Annual Report 2012 - 2013*. Glasgow: Scottish Wider Access Programme (West and Central Scotland Consortium).
- Scottish Wider Access Programme. 2014. *A Socially Mobile Scotland: Widening Access / Lifelong Learning*. Glasgow: Scottish Wider Access Programme – West Consortium.
- Simpson, Mary. 2006. *Assessment*. Edinburgh: Dunedin Academic Press.
- Snaith, David, Myra Duffy, Brian Knights, and Bill Stevely. 1998. *Increasing Opportunity*. Glasgow: SWAP (West) and Scottish Qualifications Authority.
- Walker, Lynn. 2000. Predicting or Guessing: The Progress of Scottish Wider Access Programme (SWAP) Students at the University of Glasgow. *International Journal of Lifelong Education* 19, No. 4: 342-56.
- Walker, Lynn. 2007. *Wider Access Premium students at the University of Glasgow: Why do they need support?. Journal of Access Policy and Practice* 5, No. 1. National Institute of Adult Continuing Education: 22-40.
- 柳田 雅明. 2001. 「イギリスにおける成人のための高等教育入学準備課程」 『日本生涯教育学会年報』 22: 193-204.
- 柳田 雅明. 2004. 『イギリスにおける「資格制度」の研究』 多賀出版.
- 柳田 雅明. 2006. 「イギリス・スコットランドにおける成人学習・能力開発支援実践: ニューバトル・アビー・カレッジの事例」 『産業教育学研究』 36-2: 28-29.
- 柳田 雅明. 2007. 「イギリスにおける成人向け大学等進学準備課程の再検討: 自立支援政策との関連を焦点に」 『日本生涯教育学会論集』 28: 149-157.
- 柳田 雅明. 2008. 「イギリスにおける成人に対する補償学習機会の検討: シティ・リット Return to Study を事例に」 『日本生涯教育学会論集』 29: 181-190.
- 柳田 雅明. 2013. 「大学入学到達度の全国共通設定における理念と現実 – スコットランドの検討 –」 (教育目標・評価学会第 24 回大会 2013 年 12 月 1 日) .